

# 万葉図書・情報室だより56号

万葉文化館の収蔵作品



前号では万葉文化館所蔵の「万葉日本画」の特徴について述べたが、万葉文化館には「万葉日本画」とは異なる作品も多く所蔵されている。本稿ではそれらについて簡単に触れていきたい。

まず、重要なカテゴリーとして「万葉日本画大賞展入選作品」が存在している。万葉文化館では平成十五年（二〇〇三）から平成二十三年（二〇一〇）までの期間、隔年で「万葉日本画大賞展」という公募展を開催していた。この展覧会は、『万葉集』をテーマとした作品を公募し、審査を行なった上で入選作品を万葉文化館で展示するというものだった。入選作品の中でも大賞受賞作一点と準大賞受賞作二点には賞金が出され、その作品は万葉文化館の収蔵品となるという仕組みであり、「万葉日本画大賞展」は第五回まで開催されたため、万葉文化館には五点の大賞受賞作と十点の準大賞受賞作が所蔵されているということになる。また、その他の入選作品についても制作者による申し入れがあれば寄贈

を受け入れており、こうした寄贈作品は十八点が収蔵されている。そのため「万葉日本画大賞展入選作品」は現在三十三点が所蔵されているということになる。

「万葉日本画大賞展入選作品」は、「万葉日本画」と同じく『万葉集』をテーマに制作された作品であるが、作品の傾向には若干の違いがある。「万葉日本画」は『万葉集』に詠まれた歌などを素直に絵画化したものが多いが、人物なども古代の衣装を身につけた姿で描かれているが、「万葉日本画大賞展入選作品」の中には『万葉集』の歌の内容を現代風俗に置き換える形で表現した作品なども含まれているなど、より趣向を凝らした表現が見られる傾向にある。これは、公募展という性格上、各作品の制作者の創意がより強く反映されたということであると考えられる。「万葉日本画大賞展」は『万葉集』の普及の他に万葉文化館の収蔵品の拡大という役割を担って始められたものだろうが、こうして実際に多様な表現の作品が所蔵されたという事実を見るに、その試みは一定の成功

を収めたと言えるだろう。

他の収蔵作品としては、万葉文化館で開催された展覧会で取り上げた画家（もしくはその遺族）からの寄贈作品が存在している。多くは万葉日本画の制作者の作品だが、三瀬夏之介氏や内藤定昭氏のように、万葉日本画の制作者ではない画家の作品も含まれている。万葉文化館は日本画を主に収蔵しているが、こうして作家から寄贈を受けた作品には油彩画やフレスコ画なども含まれる。寄贈作品の中では井上稔氏、鳥頭尾精氏、岡橋萬帆氏、金森良泰氏、内藤定昭氏、野々内良樹氏の作品はまとまった数の作品が所蔵されており、初期から現在に至るまでの画業を概観できるほどのものとなっている。他に面白い作品としては、「万葉日本画」や「万葉日本画大賞展入選作品」の素描があり、本画が完成するまでの画家の試行錯誤をうかがうことができるものとなっている。

以上、駆け足ではあるが万葉文化館の収蔵作品について概観してきた。今回紹介した「万葉日本画大賞展入選作品」とその他の寄贈作品は合わせて五百点以上が存在している上、「万葉日本画」と異なりまとまった形での図録が存在しないため、どのような作品か

を目にして把握している人は多くないかと思う。しかし、ここ数年の万葉文化館では年に二回の館蔵品展が開催され、そのうち一回で「万葉日本画」以外の作品を展示することが多い。機会があればぜひ実際に目にしていただきたい。（主任学芸員 安永幸史）

絶景ですよ♪



図書室からの万葉庭園

## 利用案内

開館時間 午前10時～午後5時半  
休館日 1月曜日（祝日の場合は翌平日） 年末始・展示替日

図書室のご利用は無料です  
閲覧でのご利用になります。

コピーサービス 白 黒 一枚 10円

カラー 一枚 50円

奈良県立万葉文化館万葉図書・情報室

奈良県高市郡明日香村飛鳥一〇

0744-54-1850（代）